

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00262

研究課題名（和文）日本実験映画を対象としたアーカイブとフィルム・キュレーションの学術的考察

研究課題名（英文）An Academic Research Perspective on Archives and Curatorial Projects for Japanese Experimental Films

研究代表者

平澤 剛（HIRASAWA, Go）

明治学院大学・文学部・研究員

研究者番号：00573792

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1950年代後半から1970年代前半を中心とする日本の実験映画を対象に、作家作品研究や領域横断的な研究の発展のみならず、新たな作家や作品の発掘、デジタル化を含めたネガ・ポジの修復、オリジナルや複製素材の保存、関連資料の収集といったアーカイブの作業によって研究基盤を整備するとともに、インターメディア的特徴をいかした上映や展示の実践を通じて、フィルム・キュレーションという方法論の学術的考察を目指した。三年度に渡り、対象となる作品の修復保存、デジタル化、資料調査を継続しながら、歴史的な検証を進め、日本、北米、欧州などでの展示、上映、講演などを通じて、その研究成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

既存の映画研究とは異なったアーカイブ、キュレーション的な実践を基軸とした方法論を新たに提起することで、日本実験映画の研究基盤を整備するとともに、修復保存、デジタル化、再制作された素材を用いた上映や展示を、国内外の大学、映像機関、美術館などで行うことで、国内のみならず国際的な、学術的のみならず社会的な関心も喚起した。

研究成果の概要（英文）：This study focused on Japanese experimental film from the late 1950s to the early 1970s and developed a foundation for research not only through the development of film studies and cross-disciplinary research, but also by discovering unknown artists and works, restoring negatives and positives including digitization, preserving original and reproduction materials, and collecting related paper materials. In addition, through the practice of screening and exhibiting films with intermedia characteristics, we aimed for an academic examination of the methodology of film curation.

Over three years, while continuing the restoration, preservation, digitization, and material research, we conducted historical verification and presented the results of our research through exhibitions, screenings, and lectures in Japan, North America, Europe, and other countries.

研究分野：人文学

キーワード：日本映画史 前衛芸術史 フィルムアーカイブ フィルムキュレーション

## 1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り、1950年代後半から1970年代前半を中心とする日本の実験映画——個人映画、アンダーグラウンド映画、美術映画、アート・アニメーション、前衛的なドキュメンタリー映画——に対する国際的な再評価が高まっていた。著名な作家に加えて、新たな作家、集団、運動体の研究、劇場や文化機関などの上映史、あるいは理論史、あるいは、写真、美術、音楽、パフォーマンス、メディア学などの他分野からの領域横断的な研究に至るまでその対象は飛躍的に広がった。しかし、この時代の作品のほとんどは、作家や製作者自身が保管しており、劣化や散逸も進んでいるため、素材や資料の状態や有無によって、研究の対象が事前に決定される傾向も少なくなかった。

他方で、映画の選定や保存という従来のアーカイブの役割のみならず、それらの積極的な上映や展示を通じて、映画の美学、歴史、また技術を解釈する新たな方法論として、フィルム・キュレーションという概念が提唱され始めていた。本研究の対象となる時代の実験映画は、マルチ・プロジェクション、パフォーマンス上映、フィルム・インスタレーションなど、作家の立会いやインストラクションに従った上映環境の再演、再制作が前提となる作品が数多い。そのため従来の映画プログラムやアーカイブの方法論は適用が難しいため、フィルム・キュレーションという概念の応用が有効であった。しかし、日本ではキュレーションという用語が美術分野で定着したばかりで、その学術的な議論も発展段階であった。

## 2. 研究の目的

1で指摘した問題点を踏まえ、1) 作家作品研究や領域横断的な研究の発展のみならず、歴史的に重要とされながら現在では再検証されていない作家や作品の発掘、デジタル化を含めたネガ・ポジの修復、オリジナルや複製素材の保存、関連資料の収集といったアーカイブ的作業によって研究基盤を整備するとともに、2) 実験映画のインターメディア的な特徴をいかした上映や展示の実践を通じて、フィルム・キュレーションという方法論の学術的考察を目的とした。また一連の研究の成果として得られた情報を広く共有することで、国際的なネットワークによる作品や資料の修復保存、公開を強化していった。

## 3. 研究の方法

対象となる作品の所在や保存状態、当時の上映方法を把握するため、作家、遺族、制作者、批評家、プログラマー、アーキビストへの聞き取り、映画・映像文化機関、美術館で収蔵作品を調査し、リスト化、資料収集、分析を行う。中心は日本国内だが、日本実験映画を収蔵する欧米での調査も並行する。またアーカイブやフィルム・キュレーションの実践的な方法論の聞き取り、理論研究をしながら、リストをもとに歴史的に重要な作品、緊急に対策が必要な作品を選定し、デジタル化を含む修復保存を行う。さらに作品の上映、展示とそれを通じた研究を成果として発表する。研究方法は、主に、①作品の調査、②資料収集、作家・作品分析、理論研究、③修復・保存、④研究成果の発信、の四つの組み合わせとなった。

## 4. 研究成果

3に基づき、国内外の研究者、フィルム・アーカイブ、美術館、文化機関、NPOとの共同、協力によって研究、および成果発表を進めた。主な上映、展示、イベント、および学術論文、発表については以下を参照。

### 上映、展示

1. Landscape Theory: Post-1968 Radical Cinema in Japan, e-flux screening room, March 2023 (アメリカ合衆国)
2. Yasunao Tone Weekend, Light Industry, March 2023 (アメリカ)
3. Unrest 62/22, ゲーテ・インスティトゥート東京、2022年5月～9月 (日本)

4. Film as a Subversive Art 2021: A Tribute to Amos Vogel, Vienna International Film Festival, October 2022 (オーストリア)
5. Japanese Cinema Expanded, Modern Museum of Art, NY, January 2021 (アメリカ)

学術論文、発表

1. Go HIRASAWA, Landscape Theory in "The Man Who Left His Will on Film", Nagisa Oshima and Landscape Theory: Landscape Theory: Post-1968 Radical Cinema in Japan, Pratt Institute (アメリカ) (招待講演) (国際学会)
2. 平沢剛「アンダーグラウンドとアーカイブの非親和性」『日本戦後芸術をめぐるアーカイブの実践的研究』東京文化財研究所、2023年3月
3. Go HIRASAWA, Masao Adachi and his new film, Berlin Film Critics Week, February 2023 (ドイツ) (招待講演)
4. Go HIRASAWA, Iwanami Film Productions and the Japanese New Wave Movement, Fujiko Nakaya: Multiverse, Haus der Kunst, July 2022 (ドイツ) (招待講演) (国際学会)
5. Go HIRASAWA, Japanese Underground and Independent Cinema in the 1950-1970s, Vienna International Film Festival, October 2022 (オーストリア) (招待講演) (国際学会)
6. Go HIRASAWA, Japanese Expanded Cinema, Modern Museum of Art, NY, January 2021 (アメリカ) (招待講演)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Go HIRASAWA
2. 発表標題 Landscape Theory in "The Man Who Left His Will on Film"
3. 学会等名 Nagisa Oshima and Landscape Theory: Landscape Theory: Post-1968 Radical Cinema in Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平沢剛
2. 発表標題 アンダーグラウンドとアーカイブの非親和性
3. 学会等名 日本戦後芸術をめぐるアーカイブの実践的研究
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------